

奄美群島日本復帰50周年

奄美群島日本復帰までのあゆみ

奄美群島は、昭和21年2月に日本から分離され、米国軍政府の統治下に置かれていましたが、昭和28年12月25日、日本に復帰しました。

今年は、奄美群島が日本に復帰して50年という節目の年に当たります。

昭和20年
8月 太平洋戦争終戦

昭和21年
2月 「2. 2宣言」により奄美群島は日本から行政分離される
10月 鹿児島県大島支庁を廃し「臨時北部南西諸島政庁」設置

昭和22年
5月 臨時北部南西諸島司法庁が発足(司法の独立)
7月 低物価政策実施

昭和23年
4月 6・3制教育制度実施
11月 低物価政策廃止

昭和24年
1月 米国軍政府、配給食料の3倍値上げ方針発表、反対運動起こる

昭和25年
11月 「奄美群島政府」設置

昭和26年
2月 奄美大島日本復帰協議会結成
3月 「奄美群島政府」議会在日本復帰決議
4月 復帰署名運動で、14歳以上の住民99.8%が署名
7月 第1回郡民総決起大会
8月 各地で断食祈願が行われる復帰陳情団、密航で日本に渡り陳情を行う

昭和27年
9月 「琉球政府奄美地方庁」設置
10月 重成格県知事来島(郡民大会等に出席)
11月 奄美大島日本復帰協議会代表3名が陳情活動のため日本に渡航

昭和28年
5、6月 重成格県知事、奄美婦人代表がルーズベルト夫人に陳情
8月 ダレス米国务長官、奄美群島返還発表(ダレス声明)

12月 日本復帰
(日米協定調印24日、復帰25日)

日本復帰直前から復帰までの写真

- ①ルーズベルト夫人と会談し、奄美群島の復帰について協力を依頼する重成格県知事(昭和28年5月31日)
- ②ダレス声明に歓喜する住民(昭和28年8月)
- ③復帰当時の名瀬市街(昭和28年8月)
- ④県庁知事室にて復帰を喜ぶ重成格県知事ら(昭和28年)
- ⑤名瀬市で行われた奄美群島返還式(昭和28年12月25日)
- ⑥名瀬小学校で行われた復帰祝賀式典(壇上は重成格県知事)(昭和28年12月27日)

奄美群島日本復帰50周年記念事業

奄美群島日本復帰50周年記念事業のうち、今後実施される主な事業は次のとおりです

奄美群島日本復帰50周年記念
第57回県民体育大会「しおのと県体」

内 容: 奄美群島を中心に県民体育大会を開催

と き: 秋季大会 10月31日(金)
～11月 3日(月)

奄美群島日本復帰50周年
記念式典・祝賀会

主 催: 奄美群島日本復帰50周年記念事業実行委員会

内 容: 名瀬市において記念式典等を開催

と き: 祝賀会 11月15日(土)
記念式典 11月16日(日)

図書館フェア
「復帰運動のあゆみ展」

内 容: 奄美群島市町村の図書館等において、復帰史料の展示等を実施

と き: 平成15年10月
～平成16年3月

県民文化祭
「こどもフェスタ」

内 容: 奄美群島内外の園児、児童、生徒による文化活動の発表と交流

と き: 11月23日(日)
場 所: 奄美文化センター



この結果

●平成16年度には基金が枯渇（約5億円の赤字）
●平成18年度には赤字額が約169億円に拡大
依然として極めて厳しい状況が続きます。

(単位：億円)

平成16年度	平成17年度	平成18年度
-5	-137	-169

基金が枯渇

基本的な考え方に掲げた目標を達成するには、**なお相当の収支改善策の検討が必要です。**

県民の皆さんの御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

地方公共団体の行政改革・財政健全化の取組に応じて国が発行を許可する県債で、他の都道府県でも、財政改革の取組における手段の一つとして活用されているが、地方交付税措置のない起債である。

現在、県では循環型社会の形成や森林の持つ多面的機能の維持・増進を図るため、次のような税制構想(案)を検討しています。



区 分	内 容
税 の 目 的	産業廃棄物の排出抑制、減量化、リサイクルの推進
課 税 客 体 (課税の対象)	焼却施設等及び最終処分場への産業廃棄物の搬入
納 税 義 務 者	排出事業者又は中間処理業者(焼却処理業者を含む。)
徴 収 の 方 法 (納税の方法)	焼却処理業者又は最終処分業者による特別徴収(自社処分については排出事業者の申告納付)
税 率 (税 額)	最終処分場への搬入 1,000円/トン 焼却施設等への搬入 $1,000円 \times (1 - \text{焼却残さ率}) / \text{トン}$
税 収 の 規 模	約1億円/年(試算値)
税収の使い道	排出抑制設備等の導入助成 リサイクル技術開発等の支援 不法投棄対策の強化 公共関与による最終処分場の整備推進 適正処理、リサイクルの普及啓発 等

区 分	内 容
税 の 目 的	森林の多面的機能の維持・増進
課 税 の 対 象	県内に住所、事業所等を有する個人及び法人
徴 収 の 方 法 (納税の方法)	個人県民税又は法人県民税として徴収
税 率 (税 額)	年間500円 ※個人と法人で差を設けるかどうかについては引き続き検討
税 収 の 規 模	約3億円／年(試算値)
税収の使い道	森林についての理解を深める啓発 公益的機能の維持のための森林整備 等

「聖域なくかつ県民の視点に立った財政改革の取組」として以下の方策を提言する。

県民への十分な説明等を要望



行財政改革特別委員会の審査

<http://chukakunet.pref.kagoshima.jp/>

奄美群島自然共生プラン

今年9月、奄美群島の多様な自然と共生を目指した地域づくりの指針として奄美群島自然共生プラン（以下「プラン」）を策定しました。

このプランは、県と奄美群島十四市町村が一体となって、策定を進めてきたもので、その基本として、奄美の固有な自然、これにかかわる生活、文化などの資源Ⅱ「宝」を数多く再認識・再発見しました。

今後の奄美群島の地域づくりに当たっては、この奄美の「宝」を核とし、「生物多様性の保全」と「自然とのふれあい」を念頭に置き、「人と自然との共生」を基軸とする個性的な地域をつくることとします。

●奄美の「宝」Ⅱ（地域に固有な資源）

学術的価値が顕著な自然としては、サンゴ礁と海岸の生態系や海岸の景観、希少野生動植物を要素とする森林の生態系や森林の景観を挙げることができます。また、社会的価値が顕著な自然としては、身近な自然や身近な景観を挙げることができます。さらに、これらの自然と関わりの深い文化や産業、例えば、信仰・伝統行事や島唄そして食材なども「宝」に含まれています。

奄美の「宝」

自然

歴史・文化

名人

生活環境

産業



サンゴ礁の海岸



マングローブ原生林



機織り(大島紬)

●奄美の「宝」の保全と活用策

地域の自然の学術的・社会的な価値を認識して「宝」を良好な状態に保全した上で、地域を活性化するための資源として様々な形で活用します。

プランでは、奄美の「宝」の保全と活用を行うための九つの施策を示しており、各地域ではこの施策に沿った取組を行います。

世界自然遺産登録に向けた取組

奄美群島には、亜熱帯性常緑広葉樹の森林、固有で希少な野生動植物、多様性に富んだサンゴ礁の自然が残されています。

こうした奄美の「宝」は、世界的にも高く評価されるものであつて、今年、国の「世界自然遺産候補地に関する検討会」においても、奄美群島を含む琉球諸島が世界遺産条約に定める登録基準等を満たす可能性の高い地域の一つとして選定されています。

県では、今年度から、国立公園等の地域指定のための重要生態系地域調査など、世界自然遺産への登録に向けた様々な施策を展開することとしています。

●●● 奄美の「宝」を保全・活用するための9つの施策 ●●●

1 自然共生ネットワークの形成

- ・環境教育・環境学習の推進
- ・集落の機能維持・確保
- ・専門的な調査研究 など

2 サンゴ礁と海岸の保全

- ・重要生態系地域調査の実施
- ・オニヒトデ等駆除 など

3 希少な野生動植物と森林の保全

- ・重要生態系地域調査の実施
- ・移入種対策(マングース駆除等)、希少野生動植物の保護に関する条例の適切な運用 など

4 身近な自然の保全

- ・保存樹・保護植物の指定の検討
- ・文化財保護法等による管理・保全 など

5 自然再生の検討

- ・サンゴの再生等の検討
- ・海岸植生、河川、棚田等の再生の検討
- ・奄美らしい景観・風景の創出、再生の検討 など

6 環境保全型自然体験活動(エコツーリズム)の推進

- ・計画策定の検討
- ・地域利用のガイドライン、ガイド等の認定制度等 など

7 奄美のブランドの創出

- ・奄美の豊かな自然に育まれた特産品の生産
- ・伝統的な産業(大島紬や黒糖づくり等)の継承
- ・「長寿」の島や「子宝」の島を誇りとする情報発信 など

8 自然に対する配慮の徹底

- ・住民自らが主体性を持った省資源化、ごみ減量化、廃棄物の適正処理など
- ・自然環境配慮型の公共事業の推進 など

9 世界自然遺産登録に向けた取組

- ・重要生態系地域調査の実施
- ・世界自然遺産にふさわしい島づくり
- ・登録に向けた推進体制の構築 など



奄美の「宝」を活かした
地域づくりを進めます!

「長寿・子宝・癒しの島 あまみ」
奄美群島は、長寿者が多く合計特殊出生率が高いことから長寿・子宝の島として知られています。
県では、その秘訣を分析・検証し、長寿・子宝の要因として自然環境をはじめ食生活やライフスタイル、子育てのための社会環境等が考えられるとの中間とりまとめを行いました。
今後、これらの研究成果を生かし「長寿・子宝・癒しの島 あまみ」の構築を図り、奄美群島の特性を全国へ情報発信します。



ヘゴ原生林・金作原